

令和7年8月25日

会員各位

第73回全国博物館大会
大会委員長 山梨 絵美子

第73回全国博物館大会のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より博物館の運営、活動にご尽力されておりますことに敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、今年で73回目を数える全国博物館大会は、公益財団法人日本博物館協会の主催、地方独立行政法人大阪市博物館機構共催のもと、文化庁、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会の後援を得て、令和7年11月19日（水）から21日（金）までの3日間、大阪市中央公会堂を主会場として、「持続可能な世界と博物館の発展～未来・社会・ウェルビーイングに貢献する博物館～」をメインテーマに開催いたします。

ご存じのとおり、大阪では令和7年4月13日～10月13日までの期間、大阪・関西万博が開催されています。「いのち輝く未来社会のデザイン（Designing Future Society for Our Lives）」をテーマに、貧困や格差社会とそれが生み出す対立、人工知能（AI）などのテクノロジーの急速な発展等が生み出す成果と課題を見据え、私たちひとり一人が如何によりよく生きていくか、そしてそのための方策とは何かを考える機会に満ちた意義深い万博となっています。

現在まだ万博は開催中ではありますが、今後、その成果をレガシー（遺産）としてどういう形で後世に引き継いでいくかを考えていくことが重要です。今大会では万博が提案した持続可能な社会づくり、ウェルビーイングの追求に着目し、博物館がその実現の一翼をどのように担うことができるのかを考えたいと思います。改正博物館法のもとでの地域と博物館の新たな関係や博物館同士のネットワーク、コミュニケーション技術が急速に変化する中での博物館と利用者との対話、変化する行政のあり方やコーポレートガバナンス重視のもとでの持続可能な博物館経営、共生社会における合理的配慮への対応といった個別のテーマを改めて深く議論し、さらに、直前に開催されるICOMドバイ大会の議論など国際的な協調も視野に入れて、今後の博物館のあり方について皆様と議論する機会としていきたいと思います。

関係各所の皆様のご協力の下に、全国からお集まりいただく皆様にとって意義深い大会となるよう努めてまいります。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

敬具

<開催概要>

主 催 公益財団法人日本博物館協会
共 催 地方独立行政法人大阪市博物館機構
後 援 文化庁、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
協 力 公益財団法人大阪観光局、北大阪ミュージアムネットワーク、泉州・紀北ミュージアム
ネットワーク

会 期 令和7年11月19日（水）から11月21日（金） 3日間

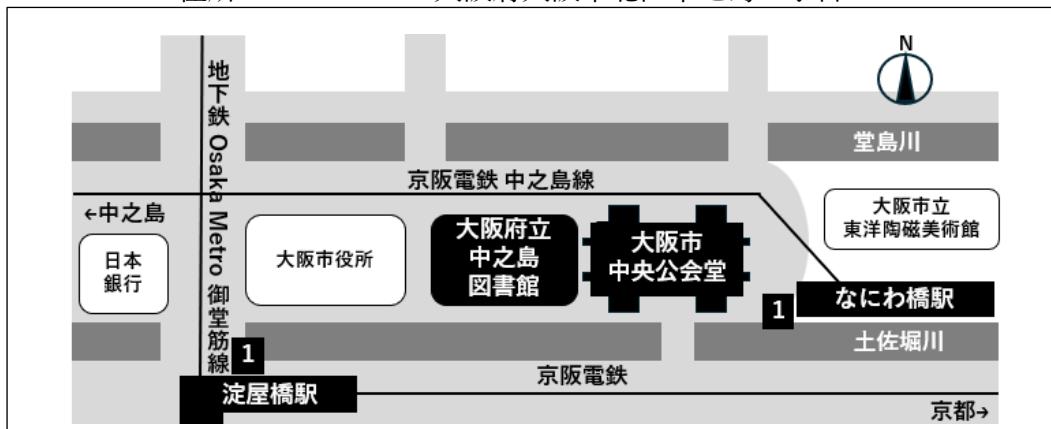
参加対象者
・日本博物館協会加盟の維持会員、賛助会員
・大阪府内の博物館関係者
・その他日本博物館協会が参加を認めた者

会 場 1. 大阪市中央公会堂 大集会室（1F） 【主会場・分科会会場】
2. 同 小集会室（3F） 【分科会会場】
3. 同 大会議室（B1F） 【出展会場】

住所：〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島1丁目1-27

4. 大阪府立中之島図書館 多目的スペース2（3F）【分科会会場】

住所：〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島1丁目2-10



交通案内

・大阪市中央公会堂

Osaka Metro : 御堂筋線『淀屋橋』駅1番出口から徒歩約5分

京阪電車 : 本線『淀屋橋』駅1番出口から徒歩約5分 中之島線『なにわ橋』駅1番出口から徒歩約1分

・大阪府立中之島図書館

Osaka Metro : 御堂筋線『淀屋橋』駅・京阪本線『淀屋橋』駅1番出口から北東へ約300メートル

京阪電車 : 中之島線『なにわ橋』駅1番出口から西へ約300メートル

※大阪市中央公会堂と大阪府立中之島図書館は隣接しています。

<日程>

第1日目：11月19日（水）

会場：大阪市中央公会堂大集会室

時 間	プロ グラム
11:00～12:00	表彰式・記念撮影：博物館功労者・永年勤続者1号表彰 ※関係者のみ
12:00～13:00	受付
13:00～14:15	開会式 挨拶：山梨絵美子（日本博物館協会会長） 祝辞：文化庁長官、大阪市長、地方独立行政法人大阪市博物館機構理事長 表彰式：博物館功労者2号・4号 棚橋賞、博物館活動奨励賞、日本博物館協会賞
14:20～15:00	基調講演「万博から持続可能な社会は見えたのか？ 未来を模索する中で、博物館の役割・資源はどこにある？」 講師：服部滋樹（graf代表、クリエイティブディレクター、京都芸術大学 芸術環境領域 教授）
15:10～16:40	全国博物館フォーラム 「信頼のネットワークを築くには～博物館同士の連携と倫理の実装～」 講師：中尾智行（文化庁博物館振興室博物館支援調査官） 講師：東自由里（ICOM日本委員会理事・立命館大学 名誉教授） 講師：川端清司（日本博物館協会参与・大阪市立自然史博物館館長） 司会：半田昌之（日本博物館協会 専務理事）
16:50～18:10	出展ブースプレゼンテーション
18:30～20:30	情報交換会 会場：大阪市中央公会堂B1F レストラン&バル 中之島ソーシャルイート アウェイク ※情報交換会会場は出展会場（B1F 大会議室）と隣接しており、情報交換会開催中も会場の一部として御利用いただけます。

第2日目：11月20日（木）

会場：大阪市中央公会堂大集会室

同 小集会室

大阪府立中之島図書館多目的スペース2

時 間	プロ グラム
9:45～12:15	分科会1 「スマートミュージアムの可能性」 分科会2 「ネットワークと博物館の持続可能性」 分科会3 「博物館におけるインクルージョンとウェルビーイング～すべての 人に開かれた場になるために～」 ※各分科会の詳細は次頁をご参照ください。
12:15～13:30	昼食／休憩 B 1F 大会議室で開催中の出展ブースにぜひお立ち寄りください。 (12:30～13:30 予定 決議起草委員会)
13:30～13:50	日本舞踊 上方舞 山村流 地唄「ゆき」 舞：六世宗家 山村友五郎 唄・三絃：菊寺智子 胡弓：菊萌文子
14:00～16:00	シンポジウム「持続可能な社会と博物館」(分科会の総括) 司会：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館 学芸課 学芸課長） 討論者：分科会1～3のコーディネーター コメンテーター：村田麻里子（関西大学 社会学部 教授） 報告者：栗原祐司（国立科学博物館 理事（兼）副館長） 篠雅廣（大阪市立美術館名誉館長）
16:15～16:45	全体会議
16:45～	閉会式

第3日目：11月21日（金）

時 間	プロ グラム
9:00～18:00	エクスカーション ◆Aコース（北摂コース、貸切バス大型1台） ◆Bコース（泉州コース、貸切バス大型1台） ◆Cコース（中之島コース、自由行動・申込不要） ※各コースの詳細は7～14頁をご参照ください。

<分科会詳細>

分科会1：「スマートミュージアムの可能性」

内容：人工知能（AI）などのテクノロジーが急速な発展を続け、SNSなどのコミュニケーションのあり方が姿を変えている中、博物館も揺られています。Japan Search等のデジタル文化資源流通の変化によって、博物館での展示、バックヤード業務、さらには社会とのコミュニケーションまでもが変化しています。これらに対応した博物館のあり方や組織内外の理解形成、サービス、活動の方向性について議論したいと思います。

コーディネーター：阿児雄之（東京国立博物館 学芸企画部博物館情報課 情報管理室長）

報告①「スマートミュージアムは博物館の未来を如何にして拓いていくか」

講師：阿児雄之（同上）

報告②「『大阪博』事業は博物館をどう変えたのか」

講師：釋知恵子（（地独）大阪市博物館機構 経営企画課 課長代理）

報告③「これから博物館の国際広報 中国SNSでの発信事例から」

講師：八田真理子（大阪市立美術館 学芸員）

報告④「博物館職員・文化財専門職のためのスマートミュージアムにむけた理解形成」

講師：高田祐一（奈良文化財研究所 企画調整部 主任研究員）（ビデオ講演）

報告⑤「3Dデータがインクルーシブに貢献する？」

講師：南谷和範（（独）大学入試センター 研究開発部 教授）

分科会2：「ネットワークと博物館の持続可能性」

内容：博物館法の改正で強調された項目の一つが、連携・ネットワークだと考えます。様々な社会課題が複雑化する中、博物館への社会からの要請も急速に多様化しています。魅力的な展覧会などへの事業対応からデジタル化、自然災害への対策など、単独の博物館では解決できないような課題が山積し、その対応のために様々なレベルでのネットワーク活動が求められています。現場が必要とする博物館連携（ネットワーク）はどのようなものか、果たして連携は持続可能な博物館経営の実現に貢献するのか議論します。

コーディネーター：福田和浩（八尾市立しおんじやま古墳学習館 学芸員・館長）

報告①「都道府県博物館ネットワークの現状と課題」

講師：福田和浩（同上）

報告②「大規模自然災害対応にみる博物館ネットワークの重要性」

講師：奥村弘（兵庫県立歴史博物館 館長）

報告③「文化財防災のためのネットワーク」

講師：中島志保（（独）国立文化財機構 文化財防災センター 研究員）

報告④「地域のなかで人々を博物館とネットワークする」

講師：川上和歌子（認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター 事務局長）

分科会3：「博物館におけるインクルージョンとウェルビーイング～すべての人に開かれた場になるために～」

内容：博物館は、本当に誰にとっても開かれた場所になっているでしょうか？

少子高齢化や在留外国人の増加、そして障害のある方への合理的配慮が義務化されるなど、博物館をとりまく環境は大きく変化しています。こうした社会の多様化に対応し、博物館が一部の人だけのものではなく、誰もがアクセスできる場所となるには、何が必要なのでしょうか。

この分科会では、実際に博物館を訪れることが出来る人々はもちろん、さまざまな理由で来ることが難しい／来ることができない人々も視野に入れ、すべての人に開かれた場づくりの可能性について、皆さんと一緒に考えます。

コーディネーター：鬼本佳代子（国立国際美術館 学芸課 教育普及室）

報告①「高齢者のためのミュージアムプログラムの意味」

講師：鬼本佳代子（同上）

報告②「障害のある人と博物館 これまでとこれから」

講師：鈴村麻里子（三重県立美術館 学芸員（課長代理））

報告③「在住外国人のためだけではない、ミュージアムにおける『やさしい日本語』」

講師：高尾戸美（合同会社マーブルワークショップ 代表）

報告④「静かな展示室から排除されるのは誰か - 美術鑑賞と美術批評の歴史から考える」

講師：今村信隆（北海道大学大学院文学研究院 准教授）

<エクスカーションコースの詳細>

※各コースの到着時間は予定になります。あくまで目安ですので、帰りの交通手段の時間には余裕をもって設定いただくようにお願いします。

◆Aコース（北摂コース）貸切バス大型1台、昼食付き

	大阪市立科学館（駐車場）	9:15 ⇒
⇒ 10:00	高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）	10:45 ⇒
⇒ 10:50	高槻市立今城塚古代歴史館	11:50 ⇒
⇒ 12:30	昼食（白雪ブルワリーレストラン 長寿蔵）	13:30 ⇒ (徒歩)
⇒ 13:35	市立伊丹ミュージアム	14:20 ⇒
⇒ 14:30	伊丹市昆虫館	15:20 ⇒
⇒ 15:50	国立民族学博物館	17:00 ⇒
⇒ 17:30	大阪国際空港（伊丹空港）	⇒
⇒ 18:00	新大阪駅	⇒
⇒ 18:15	梅田	

◆Bコース（泉州コース）貸切バス大型1台、昼食付き

	大阪市立科学館（駐車場）	9:00 ⇒
⇒ 9:30	大阪市立自然史博物館	10:30 ⇒
⇒ 11:00	大仙公園	11:45 ⇒
⇒ 11:55	昼食（はや総本店）	12:55 ⇒
⇒ 13:00	さかい利晶の杜	14:00 ⇒
⇒ 14:30	岸和田だんじり会館	15:30 ⇒ (徒歩)
⇒ 15:30	岸和田城	16:20 ⇒ (徒歩)
⇒ 16:30	きしわだ自然資料館	17:20 ⇒
⇒ 17:30	岸和田駅（南海本線）	⇒
⇒ 18:30	梅田	

◆Cコース（中之島コース）自由行動・申込不要 ※昼食も各人自由にお取りいただきます

大阪歴史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪中之島美術館、藤田美術館（調整中）、造幣博物館（調整中）、中之島香雪美術館、国立国際美術館、田辺三菱製薬史料館、杏雨書屋、大同生命大阪本社メモリアルホール特別展示

※別途入館料が必要な施設もございます。

【その他】中之島コースのエリア外にも大阪市立美術館、大阪くらしの今昔館等、自由行動でご見学いただける博物館もございます。対象となる博物館につきましては後日お渡しするバスカードでご案内いたします。

<見学施設の紹介>

紹介する各施設の概要は「大阪公式観光情報 OSAKA-INFO（観光スポット・体験）※」等からの出典となります。詳細は各施設のホームページ等でご確認ください。

※<https://osaka-info.jp/spot/>

◆Aコース（北摂コース、貸切バス大型1台）

大阪府の北部に位置する「北摂エリア」は、古くから京都・大阪を結ぶ交通の要衝として発展し、豊かな自然とともに歴史や文化が今も息づく地域です。歴史のある大阪北摂エリアの文化施設を巡っていただくことで、同エリアの歴史、文化、風土について見識を深めます。

高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）

巨大な滝や小さなせせらぎ、水上ステージなど、さまざまな水辺を演出する自然博物館。大型水槽による淡水魚の生態展示や、鳥・植物の模型を配したジオラマ展示などで高槻市の中心を流れる芥川の水辺を紹介しています。また、高槻市内の鳥類・哺乳類・昆虫類の剥製や標本も充実しており、高槻の自然と歴史を学ぶことができます。

高槻市立今城塚古代歴史館

今城塚古墳公園に隣接する館内には、三島古墳群の概要をはじめ今城塚古墳の発掘調査で判明した、古墳づくりのさまざまな工夫を実物大のジオラマ模型や映像も用いながら解説しています。実物の埴輪や豊富な出土品を通じて歴史遺産ネットワークの拠点としてさまざまな情報を発信する、歴史体験と学習の場です。

市立伊丹ミュージアム

市立伊丹ミュージアムは、旧伊丹市立美術館、伊丹市立工芸センター、伊丹市立伊丹郷町館、伊丹市立博物館、そして柿衛文庫を統合し、2022年4月に開館しました。伊丹ミュージアムが位置する兵庫県南東部の宮ノ前地区は、江戸時代には酒のまちとして繁栄し、文人墨客が訪れる文化の香り高いまちとして喧伝されてきた本市の中心市街地にあたります。当館は、美術・工芸・俳諧俳句・歴史の各分野におよぶ資料の収集保存と活用、幅広い世代が楽しめる様々な展覧会をはじめ、講座やイベントなどの教育普及活動、伊丹の酒造りを伝える旧岡田家住宅・酒蔵（国指定重要文化財）と旧石橋家住宅（県指定有形文化財）の継承と公開など、多彩な芸術文化を市内外に広く発信しています。

伊丹市昆虫館

伊丹市昆虫館は、1990年11月10日に市政施行50周年を記念して、伊丹市のほぼ中央に位置する、昆陽池公園の北東の角に開館しました。昆虫を主に扱う博物館で、開館以来30年以上にわたり、生きた昆虫や標本の展示をはじめ、体験型の特別展や個性的な企画展を数多く開催

して、昆虫の魅力を紹介してきました。また、講座や地域での活動、資料の保存、調査などの活動をしている場もあります。当館ではそれらの活動を、スタッフだけではなくさまざまな人に関わっていただき、昆虫のことはもちろん、自然のこと、地域のことなどをネタに、みんなで一緒に調べたり、学んだり、楽しむことで続けています。

国立民族学博物館

国立民族学博物館（みんぱく）は、大阪の万博記念公園にある文化人類学と民族学をテーマにした世界最大級の民族学博物館。研究者が世界各地で収集した生活用具や民族衣装など、約34万5千点を所蔵。本館の展示は、世界を9つの地域に分けた地域展示と、音楽や言語の通文化展示からなり、オセアニアを出発して東回りに世界を一周する構成となっています。衣食住などの生活用具を中心とした約1万2000点の展示資料と、世界の儀礼や芸能・生活の様子を紹介する約800本の映像番組などを通して、世界のさまざまな文化に触れることができます。年に数回の特別展や企画展も開催。

◆Bコース（泉州コース、貸切バス大型1台）

大阪府南西部に位置する泉州エリアは、大阪湾や和泉山地に接しており、緑にも恵まれた気候温暖なエリアです。岸和田だんじりに代表される伝統的な祭りや観光資源にも恵まれており、自然と歴史の双方を楽しめます。

大阪市立自然史博物館

長居公園の一角にあり、自然をメインに「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「自然のめぐみ」「生き物のくらし」と題した5つの常設展示がある博物館。大阪の自然を中心に世界の動植物、恐竜の骨格標本や各種の貴重なコレクションをもち、その活動のユニークさで全国に知られています。とくにナウマンゾウの実物大復元模型や、ナガスクジラをはじめとした3体のクジラの骨格標本は迫力満点です。また「生き物のくらし」をゲームや映像で楽しく学べる展示もあり、さらに学芸員の研究活動をもとにした特別展やオリジナリティ溢れるミュージアムショップも見どころです。また自然観察会などの野外活動も活発に行っていきます。

大仙公園

仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳の間に位置し、芝生広場や日本庭園などもある緑豊かな公園。約35haの広さを誇る堺のセントラルパーク。北入口の銀杏並木正面に聳えている「平和塔」と、江戸時代のため池を改修してつくられた瓢箪型の「どら池」を中心に「芝生広場」や「児童の森」が広がり、休日には、たくさんの子どもたちで賑わっています。ほかに、園内には堺市の歴史と文化を知ることができる「堺市博物館」や、26,000平方メートルの広さをもつ

「日本庭園」、気軽に抹茶を味わえる「堺市茶室 伸庵」などの施設もあります。4月には約400本のソメイヨシノやオオシマザクラが満開となります。

さかい利晶の杜

さかい利晶の杜は2015年3月に大阪府堺市にオープンした茶の湯の大成者・千利休と歌人・与謝野晶子を紹介し、堺の歴史、文化を体験できる観光施設です。千利休は織田信長や豊臣秀吉の茶頭として仕え、わび茶の大成者として知られています。また、その生涯の大半を堺で過ごしました。与謝野晶子は歌集『みだれ髪』や詩「君死にたまふことなけれ」などの代表作で知られる歌人で、『源氏物語』の現代語訳や社会問題の評論などにも貢献しました。さかい利晶の杜には千利休に関連した施設として「茶の湯館」、本格的な茶の湯を体験できる「茶の湯体験施設」、そして利休作として知られる京都府大山崎町の妙喜庵の国宝「待庵」を職人たちの手で復元した「さかい待庵」などがあります。与謝野晶子に関連した施設としては「与謝野晶子記念館」があります。また、当施設内には堺観光の出発地点としての機能を有する観光案内展示室があり、タッチパネルやタブレットを活用し堺の歴史文化資源を紹介しています。

岸和田だんじり会館

全国に知られている「岸和田だんじり祭」は江戸時代中期に始まり、300年の伝統を誇ります。岸和田だんじり会館はそんな祭の長い歴史や迫力を目の当たりにできる施設。令和6年3月に最新の映像技術等を駆使し、体験・体感しながら「だんじり祭」を知ることができます。既存のだんじり、鳴り物、装飾品やミニだんじりなどの展示物も活用し、「だんじり祭」の伝統・文化を継承、楽しめる展示空間としてリニューアル。岸和田城を背景に、幕末から平成まで実際に町内を曳行されていただんじりの前で記念写真がとれるフォトスポットや、デジタル化した岸和田市内各町の紹介パネル、各地区ごとのやりまわしの映像をご覧いただけるコーナー、没入感のある3面シアターでの映像、鳴り物、大工方体験など、だんじり祭のすべてをお楽しみいただけます。

岸和田城

岸和田城はいつ、だれによって建てられたのか詳しいことはまだわかっていないですが、戦国時代末期(16世紀半ば)には、当時泉州地域を治めた松浦氏の居城となっていました。天正13年(1585)には、羽柴秀吉の紀州根来寺討滅により、秀吉の叔父・小出秀政が城主になり、本丸を五層の天守に大改修。以降、岸和田城主は、小出氏3代、元和5年(1619)からは松平(松井)康重・康映、寛永17年(1640)からは岡部氏がつとめていました。岡部宜勝(のぶかつ)は、さらに城を大改築し近世城郭を築き上げ、岡部氏は明治維新まで13代居城していました。文政10年(1827)に天守閣が落雷で焼失し、維新时期には櫓・門など城郭施設を城主が自ら破壊しましたが、今も堀と石垣だけは近世以前の構造物として残っています。現在の天守閣は昭和29年(1954)に建造された3層3階の復興天守で、内部の資料展示室と望楼を楽し

めます。天守閣前には重森三玲が手掛けた「八陣の庭」が広がっています。

きしわだ自然資料館

きしわだ自然資料館は、1995年6月1日に開館した自然史博物館で、今年でちょうど30周年を迎えました。1階には、川やため池、海にすむ生き物の生体を展示する水槽コーナーやミュージアムショップのほか、企画展や特別展、講演会などを開催する多目的ホールがあります。2階の常設展示室では、岸和田市をはじめとした泉州地域のさまざまな自然を、たくさんの標本や模型、ジオラマ、映像などで紹介しています。さらに3階の収蔵展示室では、開館のきっかけとなった多数の野生動物の剥製を展示しています。観察会や実習会などの普及行事も活発に行っており、なかでも当館がきしわだ自然友の会とともに生み出した科学プログラム「チリメンモンスター」は、全国レベルの人気と知名度を誇っています。

◆Cコース（中之島コース、自由行動・申込不要）※昼食も各人自由にお取りいただきます
行政・経済・文化施設が集中する、水と緑豊かなエリア・中之島。地図の上では堂島川と土佐堀川に挟まれた、細長い中洲を指すこのエリアには、恵まれた都心の水辺環境を背景に、コンベンション施設をはじめ、国際的な文化施設やオフィス・商業施設が集結しています。そんな中之島エリアに点在する文化施設を自由に巡ります。

大阪歴史博物館

緑豊かな大阪城公園と難波宮跡公園に隣接して建つ大阪歴史博物館は、2001年に開館しました。1400年近い「都市おおさか」の歩みを紹介する博物館として、古代から中世・近世、そして近代・現代にいたるまでを、原寸大の復元建物やミニチュア模型、映像、豊富な実物資料によって展示し、大阪の歴史と文化をリアルに知ることができます。美しい大阪城の姿が眺められる最上階は、フォトスポットでもあります。また、地下に保存された難波宮の遺構は見学ツアーも実施しています。

大阪市立東洋陶磁美術館

中之島公園内の一角にあり、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ21社から寄贈されたことを記念して大阪市が設立、1982(昭和57)年11月に開館した美術館です。その後、在日韓国人の李秉昌(イ・ビヨンチャン)博士から多くの韓国陶磁、中国陶磁を中心としたコレクションが寄贈され、現在に至っています。国宝に指定されている油滴天目茶碗、飛青磁花生の2件と、青花蓮池魚藻文の壺など重要文化財13件を含む約5,700件の館蔵品は、東洋陶磁のコレクションとしては世界一級のものです。自然採光を利用した展示室では、柔らかな太陽の光に包まれた美しい陶磁器を見ることができます。

大阪市立科学館

「宇宙とエネルギー」をテーマにした科学館。展示場では見たり触れたりして楽しみながら学べる参加体験型を中心とした展示物で、子どもから大人まで科学を楽しく学べます。また、専門スタッフによるサイエンスショーも人気！世界最大級のドームスクリーンで観る、限りなく本物に近い星空を再現したプラネタリウムなど館内には楽しめるものがいっぱいです。

大阪中之島美術館

大阪中之島美術館は2022年2月2日、大阪・中之島に開館しました。コレクションは洋画、日本画、海外の近代絵画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなど、多岐にわたります。とりわけ佐伯祐三の名作、モディリアーニの裸婦像、具体美術協会のリーダー・吉原治良の作品、海外作家の代表作などは、国内外で高く評価されています。フランス語で誰でも自由に行き交うことができる歩行者専用のアーケードや小径を指す「パッサージュ (passage)」を建築のコンセプトとし、美術館に興味がある人も、ない人も気軽に通り抜け、ときにアートを体感できる、開かれたアートの活動拠点となることをめざしています。多彩なコレクションの公開に加え、幅広い分野の展覧会の開催に意欲的に取り組み、新たな美術のプラットフォームとしてみなさまをお待ちしています。

藤田美術館

明治の豪商・藤田伝三郎父子の東洋古美術品約2000件を収蔵しています。うち9件が国宝、53件が重要文化財と民間所有ではトップクラスの美術館。エントリースペースにある喫茶処「あみじま茶屋」ではお団子とお茶を楽しむことが出来ます。

造幣博物館

造幣博物館は、明治44年（1911年）に火力発電所として建てられた建物で、造幣局構内に残る唯一の明治時代のレンガ造りの西洋風建物です。昭和44年（1969年）に建物の保全を図り、当局が保管していた貴重な貨幣などを一般公開し、造幣事業を紹介するため当時の外観をそのままに改装し「造幣博物館」として開館しました。平成20年（2008年）より「人に優しい博物館、環境に配慮した博物館、魅せる博物館」を目指し、展示や設備に最新の手法を導入し、皆様方により親しんでいただけるよう大改装を行い、平成21年（2009年）4月にリニューアルオープンしました。

中之島香雪美術館

中之島香雪美術館は、神戸市東灘区御影の本館に次ぐ2館目の美術館として、2018年にオープンした美術館です。京阪中之島線「渡辺橋」駅下車12番出口直結、JR「大阪」駅桜橋口より徒歩15分とビジネス街の超高層ビルの中にある美術館で、日本の美術を堪能することができる場所となります。中之島香雪美術館のテーマは、茶の湯の世界でいう「市中の山居」の創造は、街の中に居ながらにして草庵を営み、山中のような静寂な境地を味わうこと。

そんな、テーマの下、様々な展示品を楽しむことのできる美術館です。常設展示には、国指定重要文化財「旧村山家住宅」に建つ茶室「玄庵」を原寸大で再現。茶室だけではなく、露地空間全体を再現し常設展示されています。そのほか、村山龍平の生涯を貴重な展示品や大型年表、解説パネルなどにより紹介している村山龍平記念室もあり、朝日新聞社の発祥の地である中之島の歴史を辿ることもできるようになっています。

国立国際美術館

国立国際美術館は、1977年、国内外の現代美術を中心とした作品を収集・保管・展示し、関連する調査研究及び事業を行うことを目的として万博記念公園内に開館。施設の老朽化により、2004年に大阪・中之島に、完全地下型の美術館として新築、移転されました。建物の外観は、竹の生命力と現代美術の発展・成長をイメージしてデザインされており、設計はアルゼンチン生まれのシーザー・ペリ氏が手がけました。約8,200点もの作品を収蔵し、多彩な展覧会を随時開催しています。

田辺三菱製薬史料館

道修町で育まれた日本の医薬品産業の歴史と未来を345年を超える田辺三菱製薬の歴史とともに紹介。創業は、1678年（延宝6年）初代田邊屋五兵衛が、大阪・土佐堀田邊屋橋（現・常安橋）南詰で、合薬「田邊屋振出薬」の製造販売を家業として、店舗を開いたことに始まり、以来300余年、医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献してきました。ご覧いただく「田辺三菱製薬史料館」には、当社が常に時代に先駆けて社会のお役に立つ新薬を提供し続けてきた企業活動と、幾多の困難を乗り越えてきたフロンティア精神の歴史的資料を一堂に集めています。

杏雨書屋（公益財団法人武田科学振興財団）

五代武田長兵衛氏（武田和敬翁）は、1923年9月、関東大震災により東京で貴重な典籍が灰燼に帰したことを大いに痛嘆し、日本・中国の本草医書の散逸を防ぐことが、将来、社会・学界のために極めて有意義であると考え、早川佐七氏蔵書、藤浪剛一氏蔵書などを、機会に応じ私財をもって購入し、後に「杏雨書屋」と呼ばれる文庫を形成しました。ちなみに杏雨とは杏林（良医・名医）広くは医学界を潤す雨の意です。この杏雨書屋は六代武田長兵衛氏に引き継がれ、歳月とともにその内容も増大しましたが、1977年当財団へ寄付を受けたので、1978年4月28日「杏雨書屋」の名称を継承し、本草医書・東洋学を中心とする図書資料館として開館するに至りました。本館では資料の永久保存を図るとともに、研究者の利用に供し、春秋年2回の特別展示会及び常設展の開催、研究講演会の開催、所蔵図書関係の出版等の事業活動を行っています。

大同生命大阪本社メモリアルホール特別展示

メモリアルホールは、1925（大正14）年から現在の本社ビルへの建替えが行われる1990（平

成2) 年まで当地にありました、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による大同生命旧肥後橋本社ビルの内外装の一部を用い、当時の様子を復元再生したものです。出入口上部の飾りのテラコッタ（粘土を素焼きして造った装飾物）は、旧ビルに使用されていたものであり、頭部に飾りのあるテラコッタの柱、およびホール中央壁面のトレーサリー（壁面の飾り）は実物を解体復元したものです。また、ドーム状の天井は当時のデザインをそのまま復元いたしました。旧ビルに用いられていた優れた実物やデザインを移設・復元したメモリアルホールには、過去を現在に生かし、また未来へとつなげていく願いが込められています。

【その他】

大阪市立美術館

昭和11年（1936）、天王寺公園の一角に開館した美術館。もとは住友家の庭園つきの本邸でしたが、美術館建設を目的に大阪市に寄贈された経緯があります。館内は設立当初の本館と、後に新設した地下展覧会室と合わせて、地上3階・地下2階からなり、本館陳列室では特別展やコレクション展を開催しています。コレクション展は、日本、中国の絵画・彫刻・工芸など約8500件を超える収蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しており、なかには重要文化財に指定された作品も多数あります。また天王寺ギャラリー（旧：地下展覧会室）では、常時様々な美術団体が主催する公募展を開催しているほか、本館には美術研究所もあり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っています。近年では、学芸員によるギャラリートークや小・中学生を対象にした専門家からの美術の実技指導も行っています。

大阪くらしの今昔館

北区天神橋6丁目の天神橋筋商店街に面した、大阪市立住まい情報センタービル内にある「大阪くらしの今昔館」。江戸時代から明治・大正・昭和の大坂の町と住まいの移り変わりが体験できる住まいのミュージアムです。最大の見どころは、江戸時代後期、天保のころ（1830～1844）の「大坂」を細部にわたる考証により復元した町並みと、そこで時間帯によって町の様子が変化する仕掛け。季節によって、テーマごとの飾りの模様替えも行われ、なかなかの見応えです。座敷で楽しむ上方の古典芸能、さまざまなイベントやワークショップ、「町家衆」と名乗るボランティアガイドの案内もあります。

等

※対象となる博物館につきましては後日お渡しするバスカードでご案内いたします。

大会参加費について

大会参加費（いずれも1名につき）

会員 6,000円

非会員 10,000円

情報交換会について

大会を機に親睦を深め、情報を交換する場として、下記により情報交換会を開催いたします。
参加希望の方は「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

日 時 11月19日（水）18時30分～20時30分

会 場 大阪市中央公会堂 B1F レストラン＆バル 中之島ソーシャルイート アウェイク
(定員あり)

情報交換会費 7,000円

※10月17日（金）以降のキャンセルは受けませんので、ご了承ください。

※申込多数の場合はご参加いただけない場合があります。

分科会の申込について

分科会を大会2日目午前中（9時30分～12時）に、大阪市中央公会堂大集会室（ホール）、同小集会室、大阪府立中之島図書館多目的スペース2の3か所に分かれて行います。
会場の割り振りはそれぞれの参加申込人数に応じて行います。

参加希望の分科会を「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

※原則、後日の変更はお断りしています。

※参加申込人数により、事務局より他の分科会への変更をご相談させて頂く場合がございます。

エクスカーションの申込について

大会3日目に自由参加プログラムとして、エクスカーションを行います。参加希望のコースを
「全国博物館大会参加申し込み」フォームよりお申込みください。

※10月17日（金）以降のキャンセルは受けませんので、ご了承ください。

※各コースにて発生する諸費用については「全国博物館大会参加申し込み」フォームでご案内いたします。

※参加申込人数により、事務局より他のコースへの変更をご相談させて頂く場合がございます。

※申込多数の場合はご参加いただけない場合があります。

大会参加費、情報交換会費、エクスカーション代のお支払いについて

大会当日、大会参加者に受付にて請求書をお渡ししますので、大会終了後にお振込みください（後払い）。当日の支払いは混乱を避けるため受け付けません。

資料交換について

資料交換ご希望の館園は、ご希望の資料を1種類400部 11月17日（月）AM必着にて下記宛にご送付ください。

送付先：〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前4丁目1-32 大阪歴史博物館内

大阪市博物館機構 第73回全国博物館大会係

電話番号：06-6940-4330

※本件についての御問い合わせは上記電話番号ではなく、

日本博物館協会大会事務局（03-5832-9108）までお願いいたします。

※発送伝票の品名欄には「全国博物館大会来場者用資料分」と必ず明記ください。

ご記入がないと封入されない場合がございます。

昼食・宿泊について

昼食・宿泊先については、会場周辺に多数の施設がございますので、各自で御手配ください。

宿泊については、大阪公式観光情報のサイト（OSAKA-INFO）が便利です。

<https://osaka-info.jp/information/hotel/>

その他

※諸事情により、プログラムに変更が生じる場合がございますのでご了承ください。

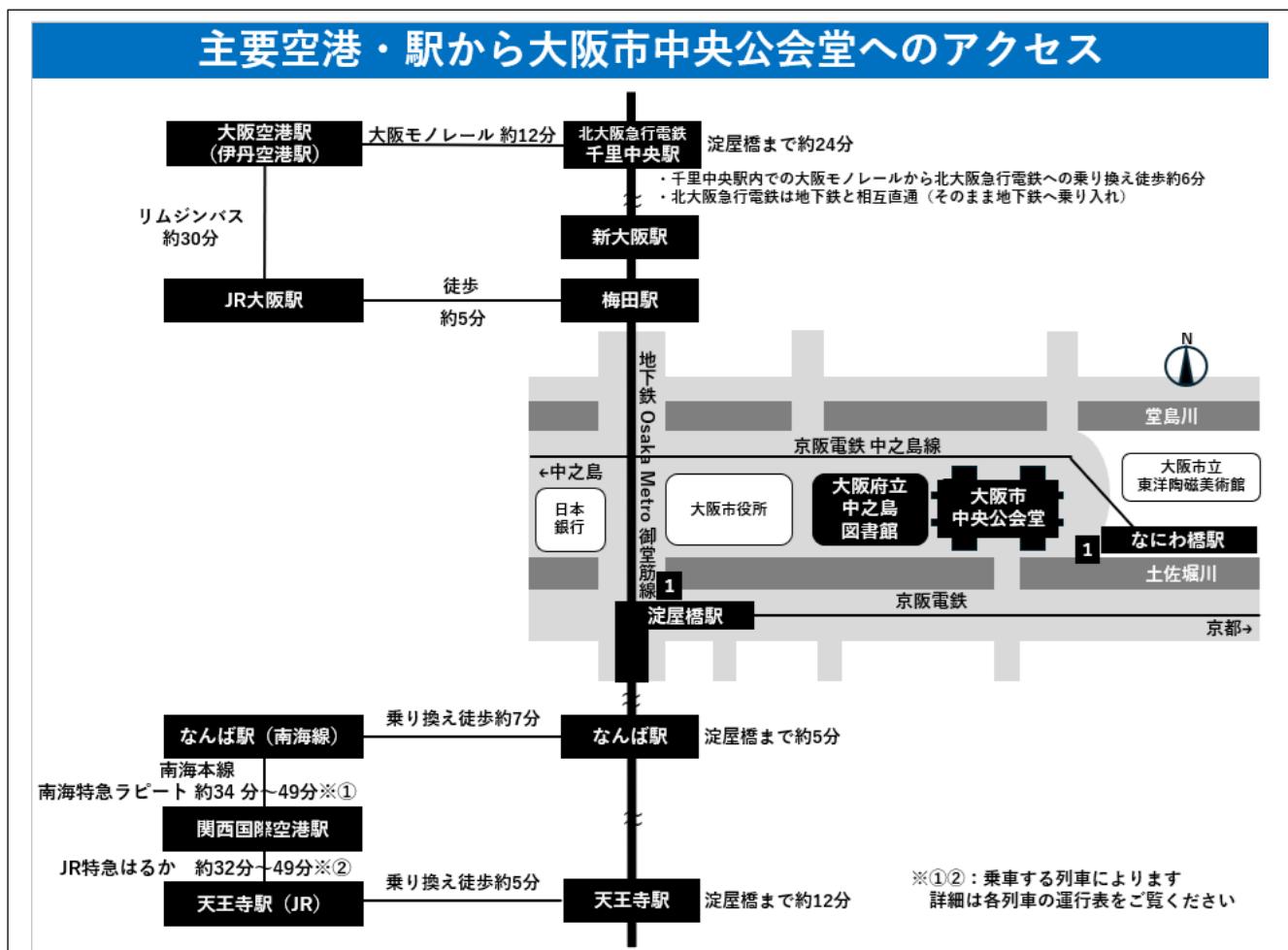
※本案内の掲載情報は8月25日の時点のものです。9月上旬には日本博物館協会ホームページにて「全国博物館大会参加申し込み」フォームと共に本案内の更新版を同時公開しますので、そちらをご覧ください。

参加申込方法について

日本博物館協会ホームページの「全国博物館大会参加申し込み」フォーム
(9月上旬公開予定)より10月17日(金)までにお申込みください。

<https://www.j-muse.or.jp/participating/>

【ご参考】広域アクセスマップ



【ご参考】エクスカーション集合・バス乗り場（大阪市立科学館 駐車場（地図中の「P」））

大阪市立科学館 交通アクセス：<https://www.sci-museum.jp/info/access/>



電車をご利用の場合

Osaka Metro (地下鉄)	四つ橋線・肥後橋駅3号出口から西へ約500m 3号出口を出て、アパホテルに沿う方向に直進し「土佐堀1東」交差点を右折して筑前橋を渡ると左側に科学館があります
	御堂筋線・淀屋橋駅7号出口から西へ約1000m 土佐堀川の北沿いの道をまっすぐ西に進んでください 「市立科学館前」交差点を渡ると左側に科学館があります
J R	J R 大阪環状線福島駅から南へ約1000m、J R 東西線新福島駅2号出口（エスカレーター有り）から南へ約900m なにわ筋を南に、橋を1つ渡って2つ目の角を左（東）に曲がります 50mほど進むと、右側に科学館が見えてきます
阪神	福島駅3号出口から南へ約800m なにわ筋を南に、橋を1つ渡って2つ目の角を左（東）に曲がります 50mほど進むと、右側に科学館が見えてきます
京阪	中之島線・渡辺橋駅2号出口から南西へ約400m、5号出口（エレベーター）から約500m、6号出口（エスカレーター）から約500m 京阪本線・淀屋橋駅7号出口から西へ約1000m 土佐堀川の北沿いの道をまっすぐ西に進んでください 「市立科学館前」交差点を渡ると左側に科学館があります